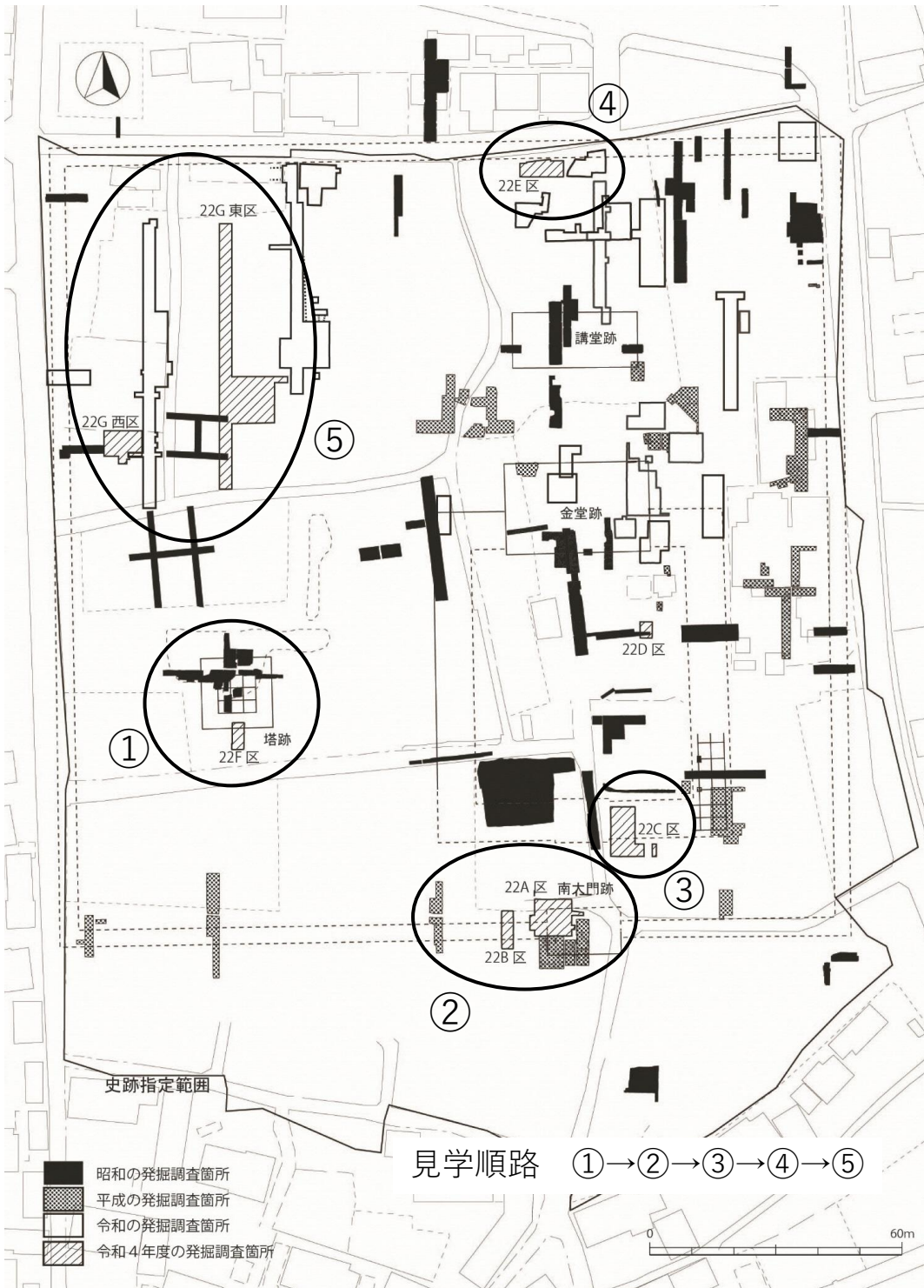


発掘だより No.48

令和5年1月29日(日)発行
豊川市教育委員会生涯学習課
〒441-0292 豊川市赤坂町松本250番地(豊川市音羽庁舎内)
TEL:0533-88-8035 FAX:0533-88-8038

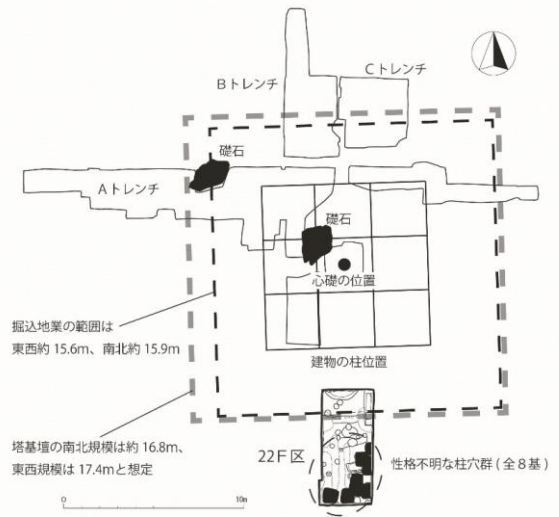
市教育委員会では令和元年度より史跡三河国分寺跡の将来的な史跡整備に向けた確認調査を実施しています。

4年目となる今年度は、南だいもん ちゅうもん どう、南大門跡、中門跡、塔跡、北出入口、(仮称)西北院の調査を実施しました。



とう
① 22F区(塔跡調査区)

塔跡については昭和60年代に東・西・北面を調査し、基壇周囲に施されたヒノキを用いた木製基壇外装のほかに、旧地表面下約2mにおよぶ掘込地業(地盤改良の痕跡)を確認しています。今年度は未確認である塔跡南面の位置把握のために調査区を設定したところ、想定した部分に木製基壇外装の痕跡をわずかに確認でき、掘込地業の南端を捉えることもできました。掘込地業の状況を確認するため一部を底面まで掘り下げたところ、数cmずつ充填された土の層(版築工法)を約35年ぶりに確認することができましたが、塔への出入口を示す階段遺構は遺されていませんでした。このほか、調査区南寄りでは性格不明な大型の柱穴群を検出しています。



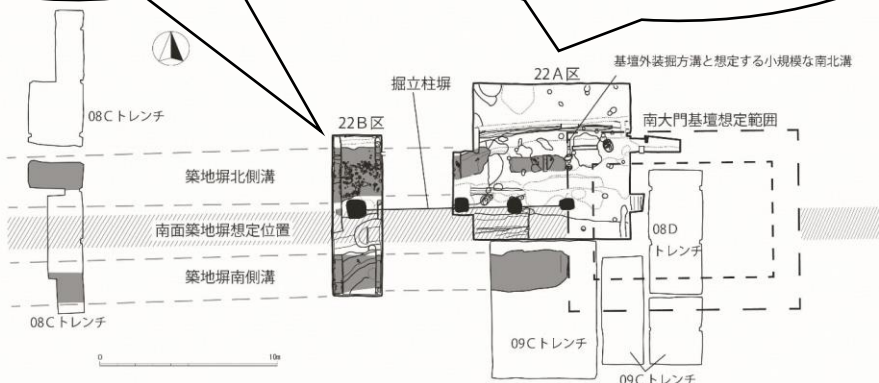
なんだいもん なんめんついじべい
② 22A・B区(南大門・南面築地塀跡調査区)

南大門は平成20・21年度の南側の調査結果と今年度の調査を踏まえおおよその範囲を把握するに至りました。



築地塀の瓦が堆積している

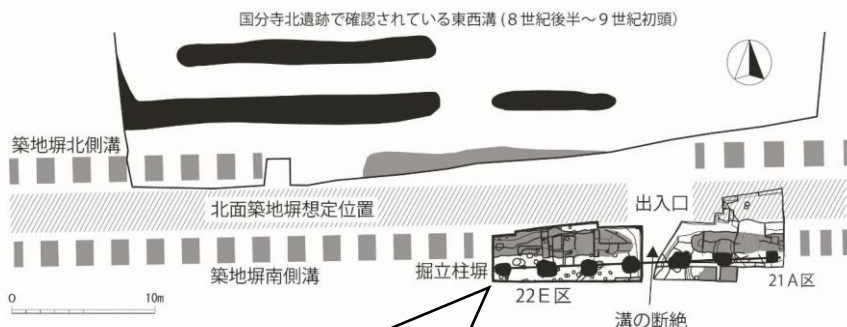
南面築地塀南・北側溝と南大門基壇西端を示す可能性が高い小規模な南北溝を検出したことから南大門の東西規模は約12.6mであることがわかりました。(南北規模は不明)



ちゅうもん
③ 22C区(中門跡調査区)

これまでに未確認である中門を明らかにするため、中門想定箇所の東側に調査区を設定しました。残念ながら中門に関する遺構は遺されておらず、古代の遺構としては瓦が多量に捨てられた土坑を確認した程度です。

④ 22E区(北出入口付近調査区)

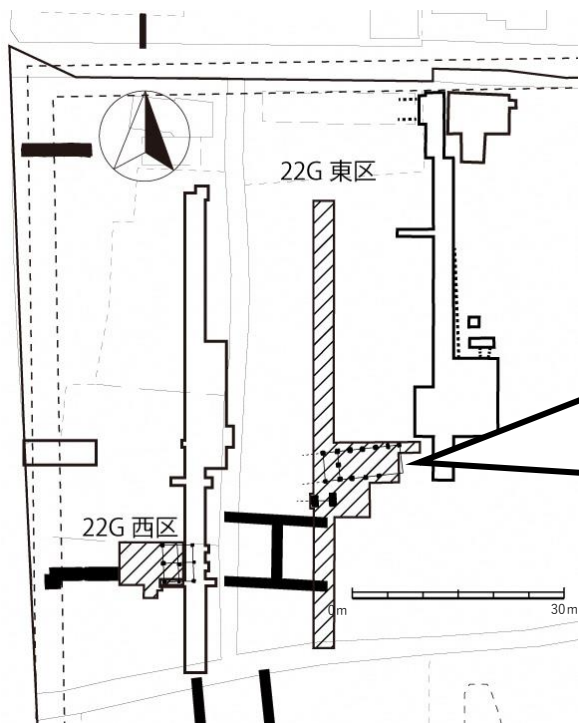


つじしべい
築地塀に先行する
ほったてばしらべい
掘立柱塀を検出しました。

この溝の断絶を通路とした
出入口の存在が高まりました。

⑤ 22G西区・東区((仮称)西北院調査区)

22G東区では、^{そうぼう}僧房の可能性のある掘立柱建物を検出しました。



【用語解説】

がらん
伽藍・南大門、中門、金堂、塔といった寺院の主要建物の総称

ついでい
築地塀・土を堅固に積み上げ造り上げた壁体の上部に屋根(瓦)を設けた構造の塀

きだん ふどうちんか
基壇・建物がのる土台(土壇)のことで、不同沈下を防ぐため堅固に土が積まれ、湿気防止のため周囲より一段高く築かれる

ほったてばしらたても
掘立柱建物・地面に掘った穴に柱の根元を埋め、柱の周囲を土で充てんした構造からなる建物

そうぼう
僧房・僧が寝泊まりするための施設。

【コラム 三河国分寺の付属地 国分寺北遺跡】

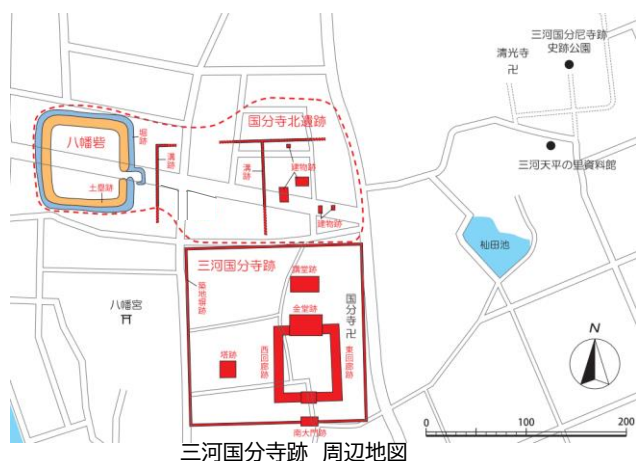
市教育委員会では、三河国分寺跡の寺域内西北部分の調査を令和2年度より調査しています。その結果、築地塀で囲まれた範囲に何らかの付属施設があった可能性が高まりました。三河国分寺跡の北に位置する国分寺北遺跡では三河国分寺・尼寺の維持経営に関わっていた施設が存在したことが過去の調査で分かっています。

国分寺北遺跡には溝で囲まれた約100m四方の2つの区画があり、特に東側の区画では、大型の掘立柱建物跡を検出し、国分寺を示す「金寺」や「僧寺」と書かれた墨書土器が出土しました。

令和3・4年度の国分寺跡の調査では北出入口と想定される遺構を検出しました。この発見は、国分寺北遺跡やその東に位置する国分尼寺との往来を想定するうえで意義のある成果であるといえます。



墨書土器「金寺」 国分寺北遺跡出土



三河国分尼寺跡史跡公園のご案内

三河国分寺跡の北東約300mの場所に三河国分尼寺跡史跡公園があります。中門・回廊の一部の建物を復元し、三河国分寺・尼寺跡、三河国府跡、船山第1号墳などの出土品を展示する三河天平の里資料館を併設しています。三河国分寺塔跡木製基壇の模型や塔の水煙の展示もあります。

住 所：豊川市八幡町忍地127-1
休館日：毎週火曜日・国民の祝日の翌日・年末年始

開館時間：午前9時から午後5時まで
入館料：無料